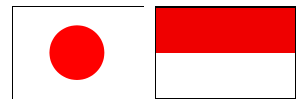


国際社会で注目され始めた インドネシアの実態





自己紹介



- 1975/4～1981/6 ヤマハ(株)入社 インドネシア工場立上支援分野配属
- 1981/6～1987/3 インドネシア工場生産課長 電子鍵盤楽器の組立生産
- 1987/3～1995/7 インドネシア工場長 電子楽器、ピアノ、ギターの輸出拠点化
- 1995/7～2005/3 帰国、インドネシアを普及品の生産拠点化するプロジェクト
- 2005/3～現在 ヤマハ退職、インドネシア進出サポートコンサルタントとして独立
インドネシア語翻訳・通訳

静岡大学客員教授、専修大学客員講師

独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)専門家

独立行政法人 中小企業基盤整備機構アドバイザー

一般社団法人海外事業支援センター(OBAC)アドバイザー

一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS)講師

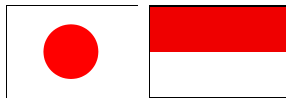
一般社団法人日本インドネシアビジネス協会(ABJI)理事

などを経験し、これまでのインドネシア進出支援企業数は約100社

インドネシアとの
関わりも51年
になりました



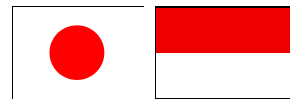
セミナー要旨



- ソビエト連邦の崩壊により、1992年以降の世界はアメリカの一極支配の下にありました。
- そして2017年以降は、アメリカ、ロシア、中国の三極支配に移り変わり、今後はインドがこれに加わる可能性があると言われていています。
- しかし、国際問題の解説では世界的に評価されている、シカゴ大学のジョン・ミヤシャイマー教授を始め、何人かの著名なアメリカ政府の元高官は、次に台頭して来るのはインドネシアかもしれないと主張しています。
- このように、21世紀に入りパラダイムシフトが進む国際社会の中で、インドネシアは年々その存在を強めて来ています。
- このセミナーでは、そのような世評の中で、過去から今日のインドネシアの実態を再認識し、これからの姿を予測してみます。



目次

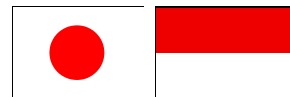


I. 大国間の国力比較

1. 総人口
2. 国土面積
3. 実質国内総生産
4. 対外純資産
5. 外貨準備高
6. 穀物生産量
7. 石油埋蔵量
8. 軍事費

II. 国家の課題

1. 汚職・共謀・縁故主義
2. 民族間の軋轢
3. 地域間格差
4. 曖昧な政教分離
5. 脆弱な教育基盤
6. インドネシア語の限界
7. 植民地時代の後遺症
8. 資源に恵まれ過ぎた楽園

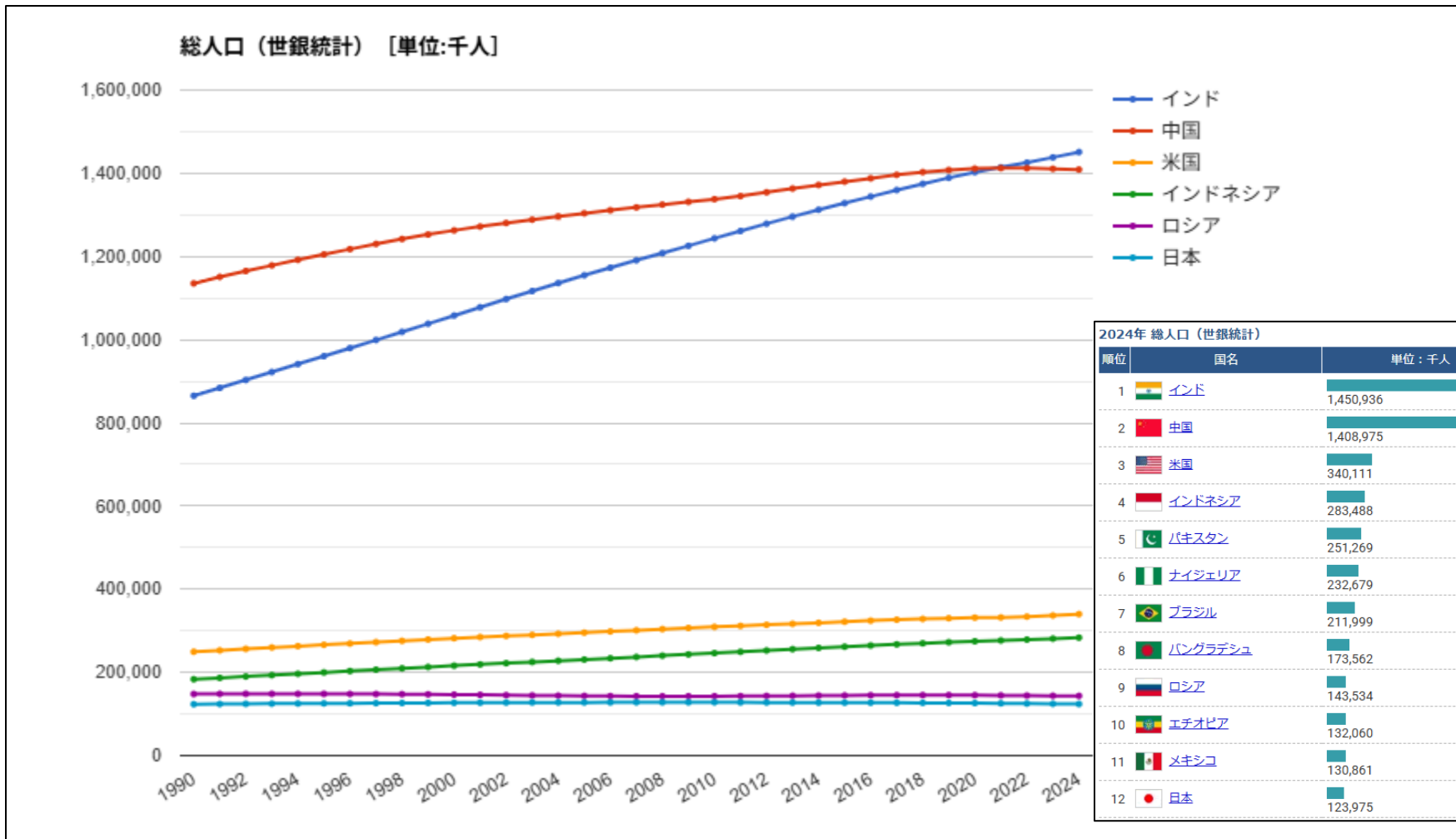
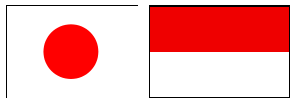


1. 総人口
2. 国土面積
3. 実質国内総生産
4. 対外純資産
5. 外貨準備高
6. 穀物生産量
7. 石油埋蔵量
8. 軍事費

I. 大国間の国力比較



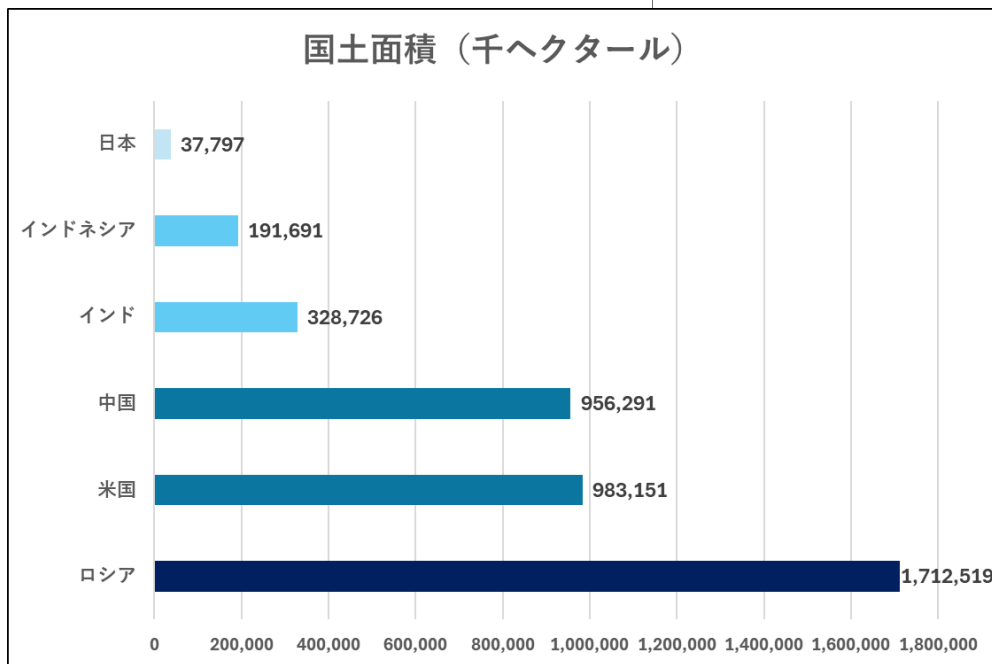
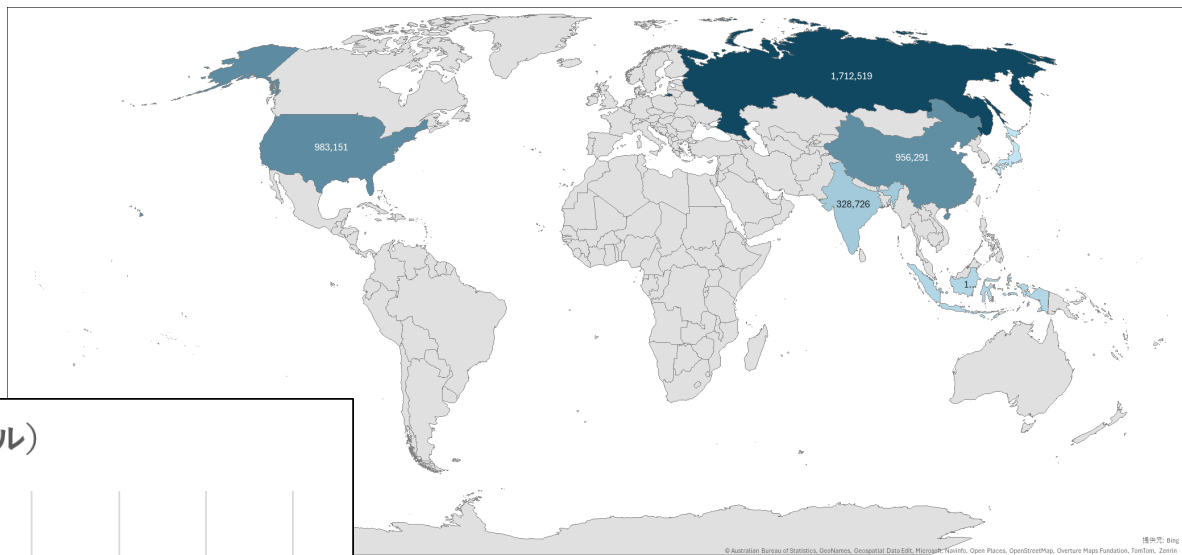
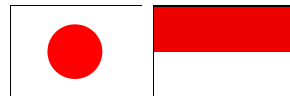
1. 総人口



資料: GLOBAL NOTE 出典: 世銀



2. 国土面積



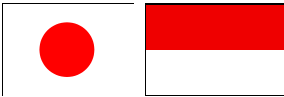
2023年 国土面積

順位	国名	単位: 千ha
1	ロシア	1,712,519
2	カナダ	987,366
3	米国	983,151
4	中国	956,291
5	ブラジル	851,042
6	オーストラリア	774,122
7	インド	328,726
8	アルゼンチン	278,040
9	カザフスタン	272,490
10	アルジェリア	238,174
11	コンゴ民主共和国	234,486
12	サウジアラビア	214,969
13	メキシコ	195,719
14	インドネシア	191,691

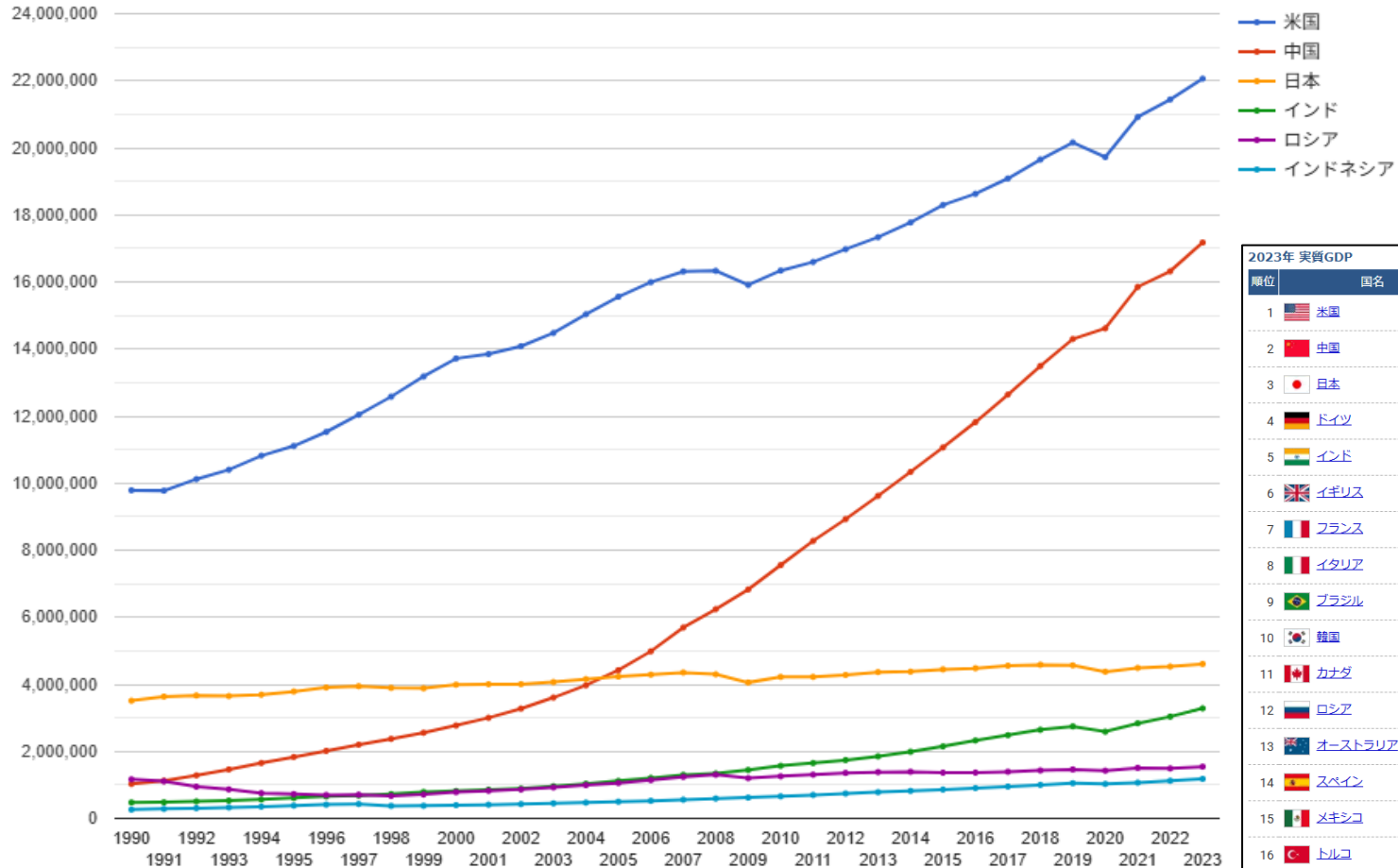
資料: GLOBAL NOTE 出典: FAO



3. 実質国内総生産



実質GDP [単位:百万US\$]

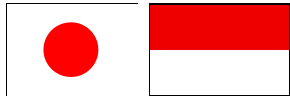


2023年 実質GDP		
順位	国名	単位: 百万US\$
1	米国	22,062,582
2	中国	17,175,673
3	日本	4,605,912
4	ドイツ	3,692,367
5	インド	3,281,972
6	イギリス	3,234,504
7	フランス	2,671,235
8	イタリア	2,010,975
9	ブラジル	1,961,081
10	韓国	1,876,325
11	カナダ	1,783,096
12	ロシア	1,543,254
13	オーストラリア	1,493,702
14	スペイン	1,381,292
15	メキシコ	1,330,290
16	トルコ	1,255,450
17	インドネシア	1,178,924

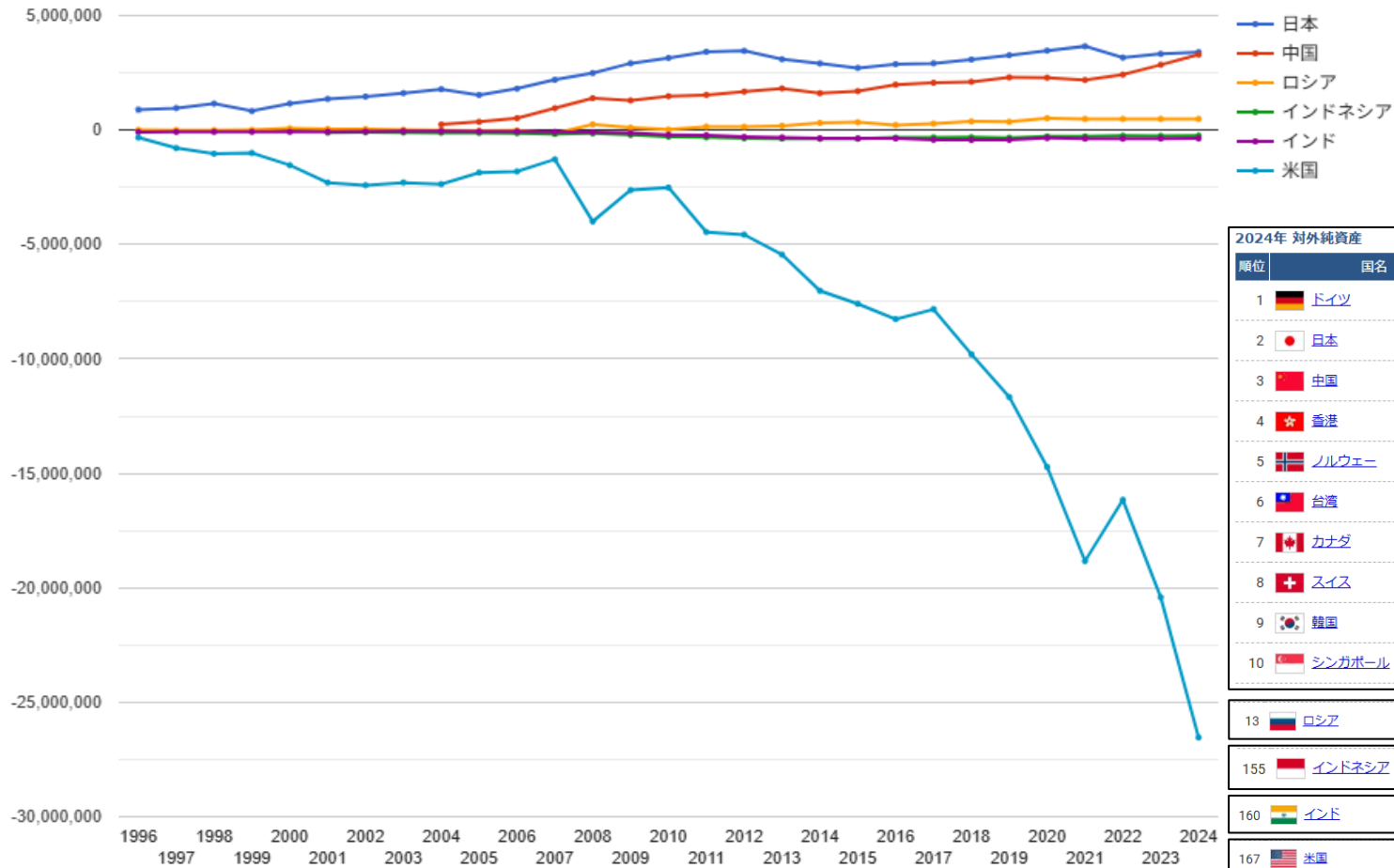
資料: GLOBAL NOTE 出典: 国連



4. 対外純資産



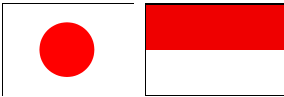
対外純資産 [単位:百万US\$]



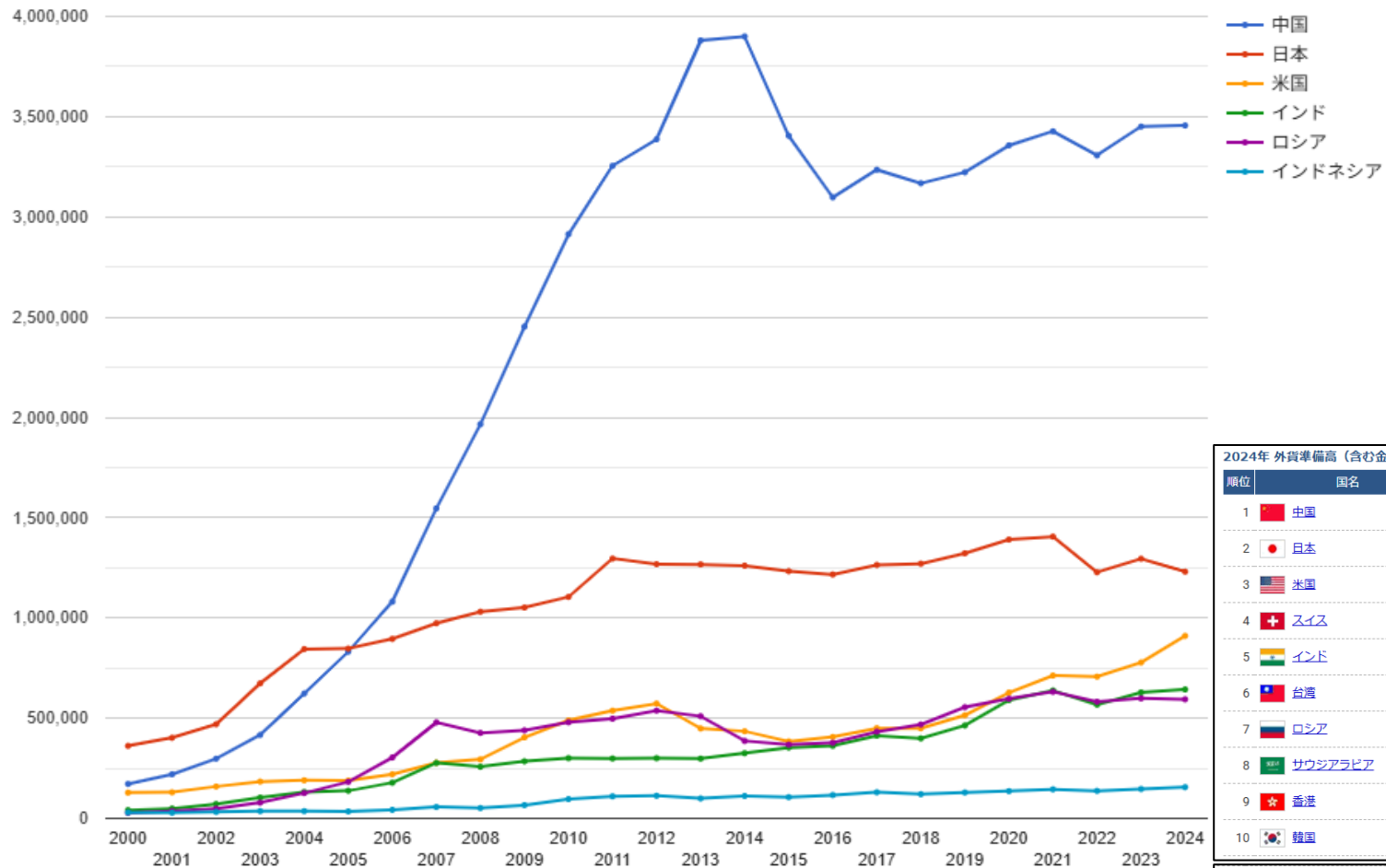
資料: GLOBAL NOTE 出典: IMF



5. 外貨準備高



外貨準備高（含む金保有） [単位:百万US\$]

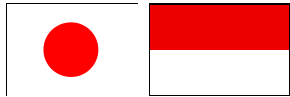


2024年 外貨準備高（含む金保有）		
順位	国名	単位：百万US\$
1	中国	3,456,025
2	日本	1,230,667
3	米国	910,037
4	スイス	909,366
5	インド	643,043
6	台湾	612,239
7	ロシア	593,833
8	サウジアラビア	463,870
9	香港	425,555
10	韓国	418,219
18	インドネシア	149,118

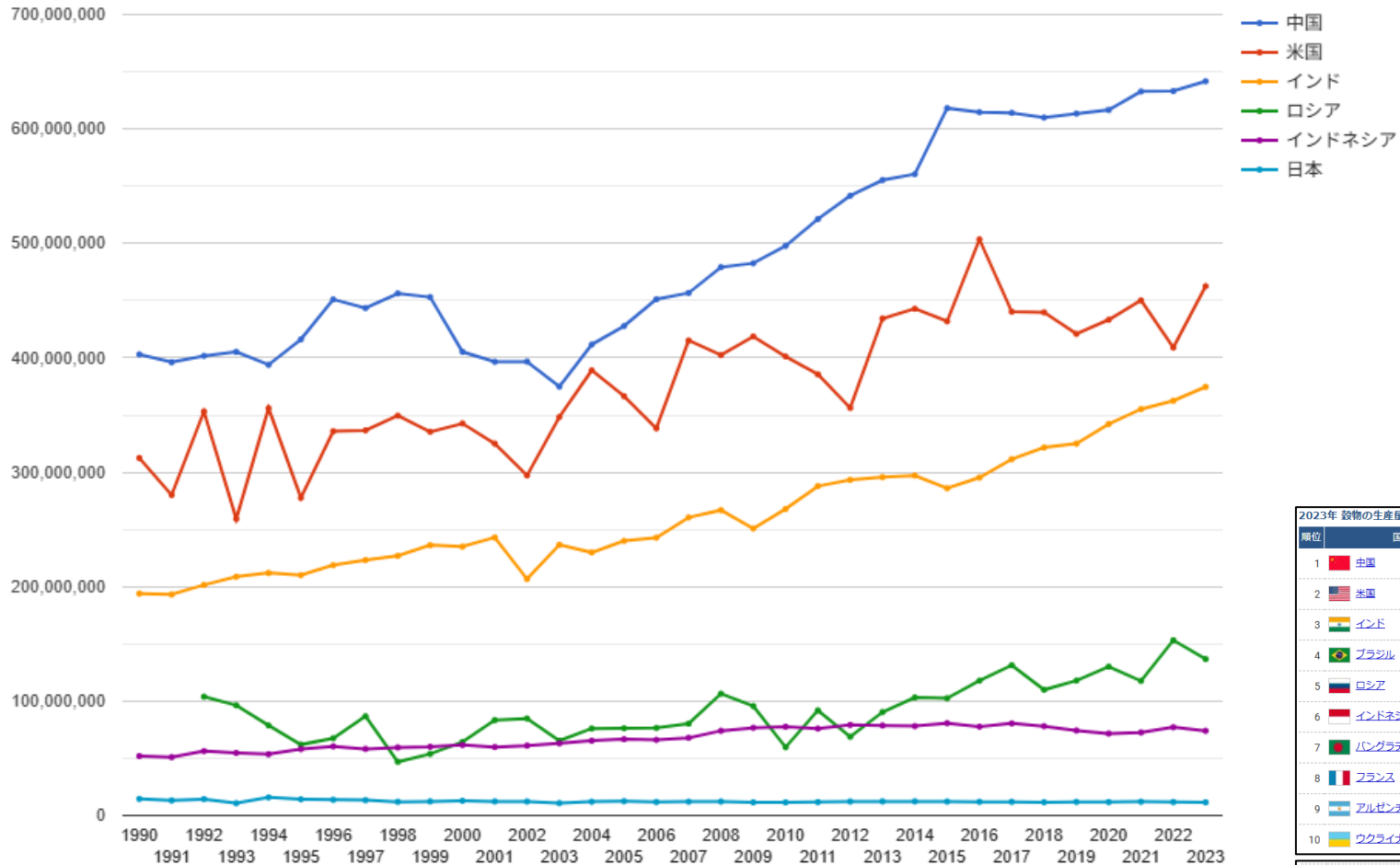
資料: GLOBAL NOTE 出典: WGC



6. 穀物生産量



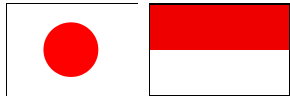
穀物の生産量 [単位:トン]



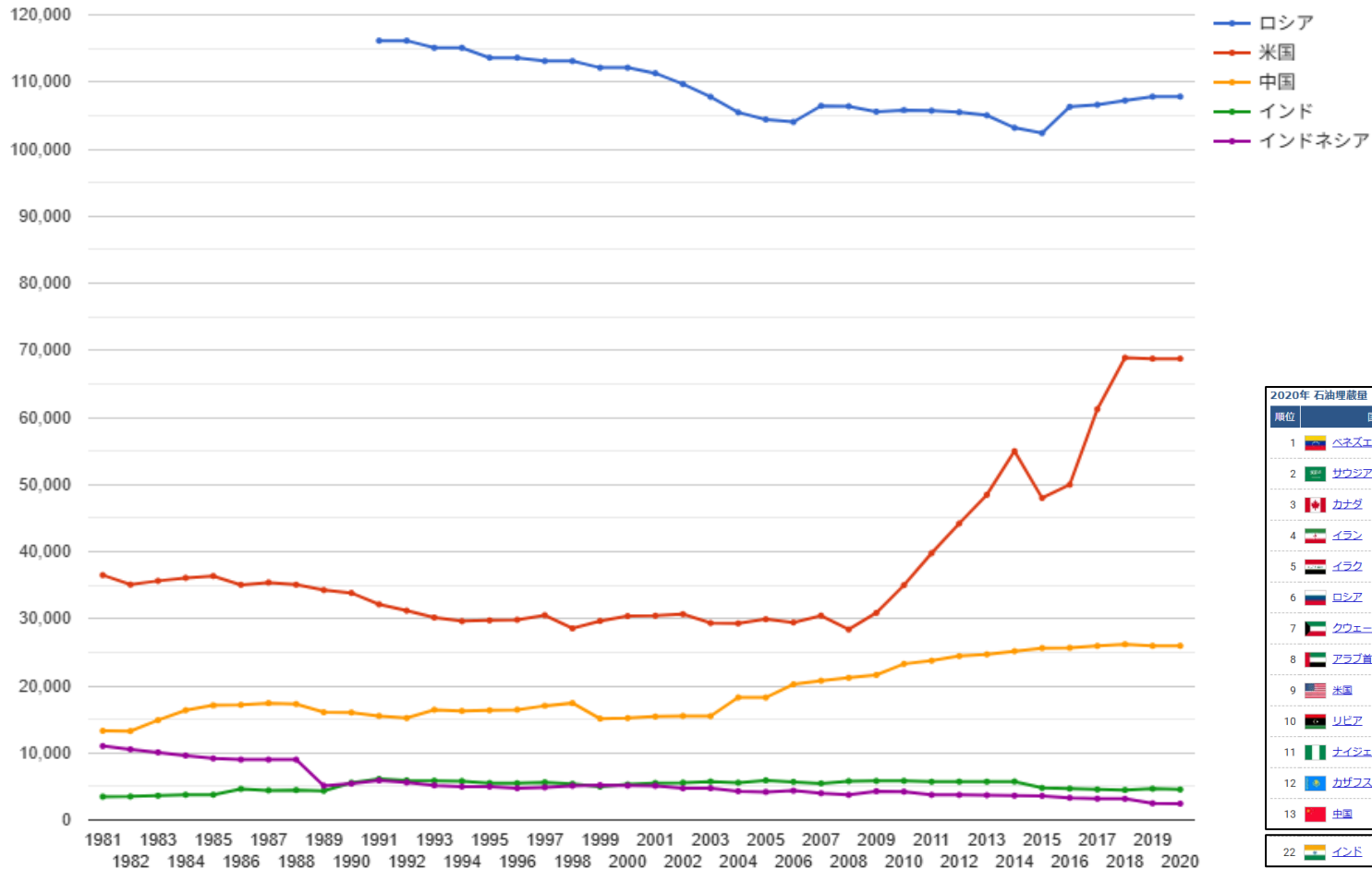
資料: GLOBAL NOTE 出典: FAO



7. 石油埋蔵量



石油埋蔵量 [単位:百万バレル]

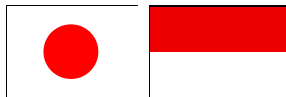


順位	国名	単位:百万バレル
1	ベネズエラ	303,806
2	サウジアラビア	297,527
3	カナダ	168,088
4	イラン	157,800
5	イラク	145,019
6	ロシア	107,804
7	クウェート	101,500
8	アラブ首長国連邦	97,800
9	米国	68,757
10	リビア	48,363
11	ナイジェリア	36,890
12	カザフスタン	30,000
13	中国	25,963
22	インド	4,543
32	インドネシア	2,440

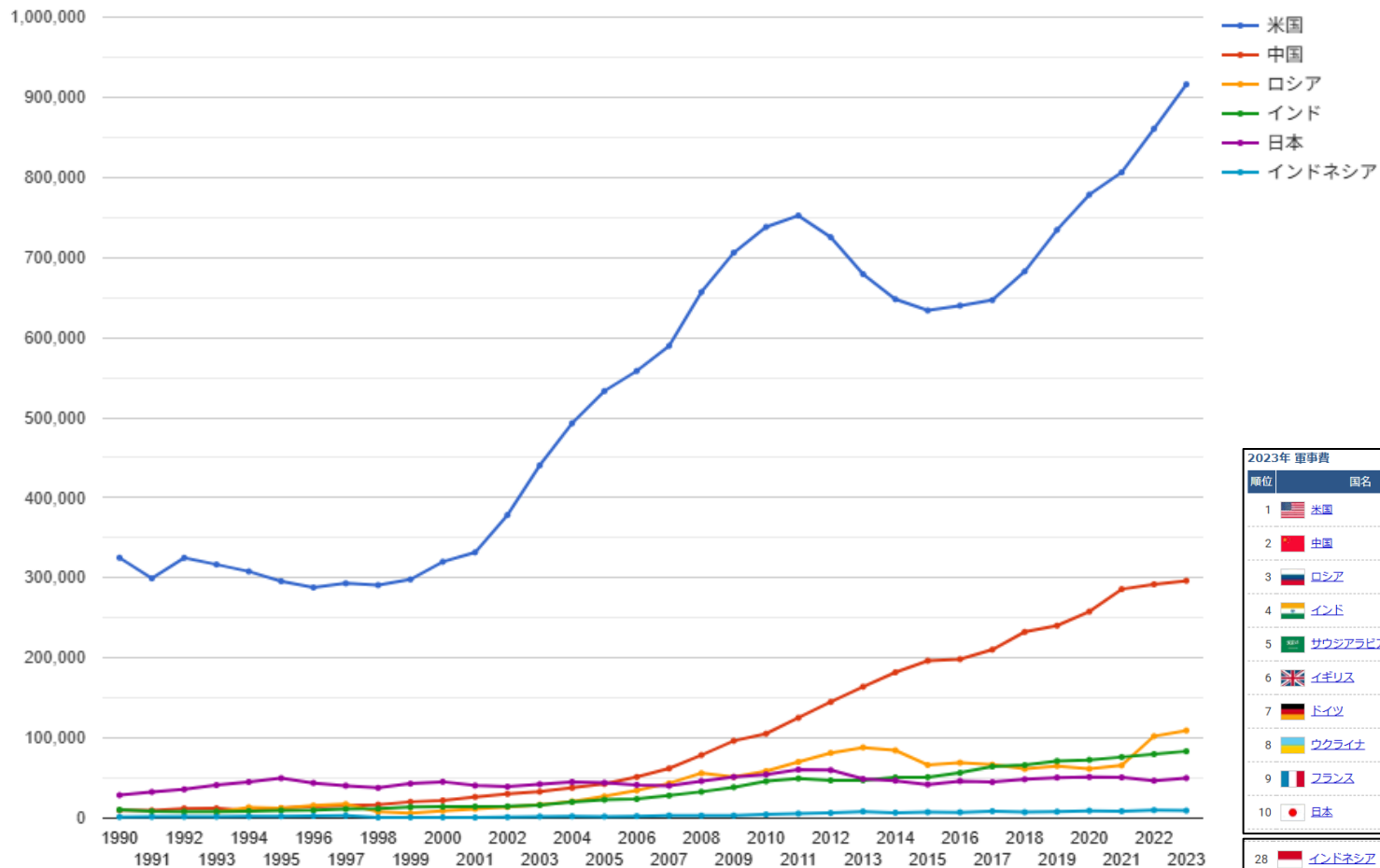
資料: GLOBAL NOTE 出典: EI



8. 軍事費

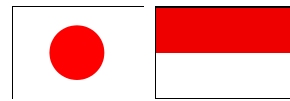


軍事費 [単位:百万US\$]



順位	国名	単位:百万US\$
1	米国	916,015
2	中国	296,439
3	ロシア	109,454
4	インド	83,575
5	サウジアラビア	75,813
6	イギリス	74,943
7	ドイツ	66,827
8	ウクライナ	64,753
9	フランス	61,301
10	日本	50,161
28	インドネシア	9,481

資料: GLOBAL NOTE 出典: 世銀

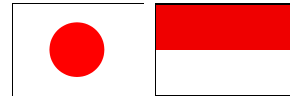


1. 汚職・共謀・縁故主義
2. 民族間の軋轢
3. 地域間格差
4. 曖昧な政教分離
5. 脆弱な教育基盤
6. インドネシア語の限界
7. 植民地時代の後遺症
8. 資源に恵まれ過ぎた楽園

II. 国家の課題



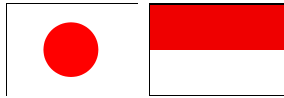
1. 汚職・共謀・縁故主義



- インドネシアには“KKN”と言う有名な略語があり、これはKorupsi(汚職)、Kolusi(共謀)、Nepotism(縁故主義)を意味するもので、スハルト政権時代から、インドネシアの闇の社会を代表する、国家的問題の一つと言われ続けて来ました。
- 1968年から1998年に軍事独裁政権を維持した、スハルト大統領の一族とその関係者は、この“KKN”を繰り返し、多くの利権を支配して莫大な富を得たと言われています。
- スハルト政権崩壊の後に登場した民主政権の下、消滅すると思われた“KKN”は、民主化で隠滅することも無くなったことから、逆に増えたようになり、2000年頃には独立組織としての“汚職撲滅委員会”KPK(Komisi Pemberantasan Korupsi)が設立されました。
- 2014年に民主主義のシンボルと期待されて登場したジョコウィド大統領でしたが、10年後の後任の選挙に際しては、年齢規定に達していない長男を副大統領候補に押し上げ、それを妹の夫である憲法裁判所の首席判事に、例外的に合法と認めさせるなど、縁故主義を国内外に披露する始末でした。
- 他の大国に於いても、腐敗は公然と存在していますが、だからインドネシアにおいても仕方が無いとするのか、これはインドネシア国民の選択になります。



参考：2025年中の汚職ニュース

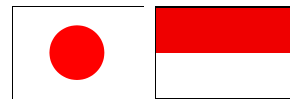


1. メッカ巡礼での汚職疑惑で前政権の宗教大臣が汚職撲滅委員会KPKの調査を受けた。
2. 労働副大臣が汚職撲滅委員会KPKに逮捕され、7台の大型バイクと15台の高級車が差し押さえられた。
3. 砂糖の輸入で不正を行い、国庫に60億円の損害を与えた元商業大臣に対する判決は、4年半の懲役となった。
4. 汚職撲滅委員会は北スマトラ州の道路工事に絡む20億円の汚職を摘発した。
5. 前政権下で公立学校にパソコンを導入する際に、数百億円レベルの汚職があった疑いで、前教育文化大臣が参考人として汚職撲滅委員会の調査を受けた。
6. 前西ジャワ州知事で、前回のジャカルタ特別州知事選挙に立候補して落選した、リドワン・カミル氏が、ジャワ・バンテン銀行の汚職に関与したとして、汚職撲滅委員会KPKの自宅捜査を受けた。
7. 国営石油会社PERTAMINAにおいて、石油輸入に絡む2兆円の汚職が発覚し、国庫に多大な損失を与えたと報じられた。
8. スマトラ島での錫採鉱の汚職で、国家に3兆円の損害を与えたとして裁判を受けていた容疑者に対して、裁判所は懲役6年半の判決を下した。





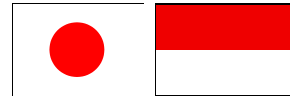
2. 民族間の軋轢



- 種族は生物学的な分類に近い「生物種」の概念、人種は皮膚の色や顔つきなどの身体的特徴で分ける後天的な社会的概念、民族は共通の言語・文化・歴史・価値観を持つ後天的な集団概念、と捉えられています。
- これに基づくと、インドネシアにおいては[200以上の民族](#)が存在すると言われ、人種的にはプリブミ(Pribumi:先住民族と言う意味)と称されるマレー系が主体ですが、ポリネシア系、オランダ系、インド系、中国系など、多様な種族、人種、民族、から構成される国家です。
- 民族間の対立で最も根が深いのは、プリブミ系と中国系の関係であると思われます。
- 17世紀に始まったオランダによる植民地統治と同じ頃、満州人の清王朝支配から逃れてきた支那人は、現在のインドネシアに住み着きました。
- オランダ植民地政府の圧政の下で、商業利権を手中に収めた支那人達は、独立以降も華人系インドネシア人として、人口割合は数パーセントに過ぎないものの、流通経済の90%を支配していると言われます。
- この歴史的事実に対するプリブミ系からの不満が、時として爆発して、華人を標的にした暴行略奪に発展する危険は常に潜在しています。



3. 地域間格差

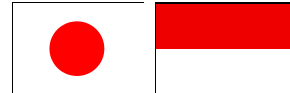



- ▶ インドネシアは17,000前後の島が、東西5,000Km、南北3,000Kmに点在する島嶼国家ですが、全人口と国家経済の6割がジャワ島に集中しています。
- ▶ その結果、ジャワ島については物事を面で捉えることが出来ますが、その他の島については、線または点でしか捉えることが出来ません。
- ▶ 天然資源の開発などの恩恵で潤っている一部の僻地はありますが、経済面だけでなく、電気、水道、通信、学校、道路、医療などの生活面でも、ジャワ島とそれ以外の島の僻地との間では、同じ国とは思えないほどの格差が見られます。
- ▶ 自然災害で大被害を受けた時の、ジャワ島以外の僻地に対する救援の困難さが、この地域の生活インフラの基盤が如何に脆弱であるかを物語っています。
- ▶ パプア島の天然資源の利権を巡り、恩恵を受けられない地元の、反政府組織によるゲリラ活動も地域間格差の一つの現れと言えます。
- ▶ カリマンタン島への首都移転が、この問題解決にどれだけ寄与するのか、今のところ未知数です。





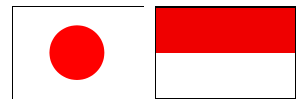
4. 曖昧な政教分離



- ▶ インドネシアの全人口の約9割は[イスラム教](#)徒で、世界最大のイスラム教徒を抱える国ですが、公的にはアラブ諸国のような、イスラム教国ではありません。
 - ▶ これは建国五原則である『[パンチャシラ](#)』の“唯一神への信仰”において、ユダヤ教を含め、基本的には全ての宗教が認められる（特定の邪教を除く）、とされていることから窺えます。
- 
- ▶ しかしながら国民の9割がイスラム教徒である事実は大きく、2026年の17日の祝日の内、6日がイスラム教の祭日であり、国を挙げての年間の最大の行事が、4週間の断食とその後の大祭であることから窺えます。
 - ▶ 前述のパンチャシラの部分では、唯一絶対の神に対する宗教ならびに信仰を、他人に強制しないと明記されていますが、アルコール飲料の販売および飲用の場所が制限されているのも、多勢に無勢と言う印象を強く受けます。
 - ▶ 2026年10月からは全ての飲食料品、医薬品、化粧品に対して、[ハラル認証](#)が法律で義務付けられますが、ハラルの意味が“イスラムの教えで認められるもの”と言うことを考えると、政教分離もかなり曖昧であると言わざるを得ません。
 - ▶ 厳格であることを望んでいる訳ではありませんが、この曖昧さが時として混乱を引き起こす危険を孕んでいることを危惧しています。



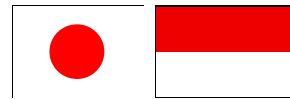
5. 脆弱な教育基盤



- 2025年時点において、義務教育である小中学校への進学率はほぼ100%ですが、高等学校は31%、4年制大学以上は11%です。
- OECDによる学習到達度調査では、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの何れにおいても、上位56カ国には入っていません。
- 高校卒業者を採用する際に数学の試験を行うと、その成績は非常に低く、日本の中学生以下であることに驚きます。
- 理由はたくさんあると思いますが、小学校から高等学校までの、教員一人当たりの生徒数が、日本のほぼ2倍であることから、先生の数が足りないことが先ず挙げられます。
- 先生の数足りない理由として考えられるのが、低過ぎる給与で、最低が月16千円で最高でも月55千円と、最低賃金を下回っていることで、更には数年間にわたり値上げがされなかったことです。
- プラボウオ大統領は国の将来を担う子供たちのために、学校給食の無償化を始めましたが、先生の充実と、老朽化して朽ち果てた様な校舎の改修のために予算を確保しないと、教育レベルの底上げは難しいと思います。



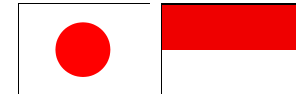
6. インドネシア語の限界



- 語彙数は英語が100万、インドネシア語が21万、日本語が10万とされていますが、専門分野での会話や説明をインドネシア語で行うのは、英語で行うよりも遥かに骨の折れる作業です。
- 特に工業分野や科学分野では、インドネシア語の原語はほとんど無いため、どうしても英語を使わざるを得ません。
- 17世紀から始まったオランダ植民地支配では、数百にわたる部族毎に異なる言語を使う原住民を統治するための共通語として、マレー語の使用を強制しました。
- 独立の際には既に広く使われていたマレー語を、インドネシア語として公用語にしたとされています。
- そのため、工業分野や科学分野に限らず、歴史や文学においても、インドネシア語での文献は限られています。
- そのためか、インドネシア人であっても、少し難しい表現を必要とする場合は、無意識の内に英語を使うようです。
- 綴りはアルファベットで、外国人にとっては好都合ですが、ジャワ語を公用語としていたならば、もっと違った文化になっていたのではないかと、時々思います。



7. 植民地時代の後遺症

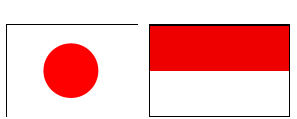


- 17世紀以降、1945年の独立まで、インドネシアはオランダの植民地として支配され、一部の王族や貴族階級を除き、奴隷のように酷使され搾取されて来たようです。
- 同時期の日本は、鎖国政策を続けた江戸時代は、欧州列強からの植民地化を逃れ、独自の文化を形作った後に、明治維新で開国してからは、短期間で列強と肩を並べるだけの富国強兵を実現しました。
- 教育の機会も満足に与えられず、奴隷のように扱われて来た300年間の、一番上等な仕事は、特権階級のお抱え運転手であったとされています。
- 過失を認めた場合は、下手をするとその場で殺されることもあり得た時代に、正直に自分の責任として認めることは、命懸けの事であったと思われます。
- 逆に、オランダ人は世界で最も汚職が巧みな民族とも言われており、オランダ人の下で商売を営む支那人も、賄賂を巧みに操る民族ですから、当時のインドネシア人は、彼らの巧みな汚職の手法を、見て学んで来たことでしょう。
- 独立して80年が経過しましたが、300年にわたる不幸な時代の名残を消し去るには、まだまだ長い年月を必要とするでしょう。



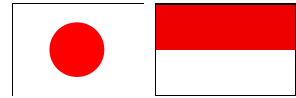


8. 資源に恵まれ過ぎた楽園



- ▶ インドネシアは熱帯地方に位置するので、さぞや暑い毎日であろうと想像されるかもしれませんが、年間の平均気温は28度で、日本の真夏に比べると遥かに過ごし易い気候です。
- ▶ 時々、地震や大雨による自然災害もありますが、日本の自然災害に比べると、遥かに住み良い、南国の楽園と言っても良いでしょう。
- ▶ そして、一年中豊富に実る農作物、アメリカ合衆国が入るくらいの広い領海から得られる海の幸、豊富な埋蔵量を誇る化石燃料から希少金属に至るまでの鉱物資源、17,000の島々に展開される風光明媚な観光資源等々、羨ましい程の自然の恵みを与えられた国です。
- ▶ 贅沢を言わなければ、T-シャツ、短パン、ゴム草履で、腹が空いたら家の裏に生えているバナナを食べ、喉が渴いたら椰子のジュースを飲んでいけば、生きて行けると言われたことがあります。
- ▶ 今でもそんな生き方をしてみたいと思うことがありますが、何もあくせくして働かなくても良いのではないかとの思いが、インドネシア人の心の底に、潜在意識としてあるのではないかと感じます。





インドネシア進出サポート公式サイト

<https://www.hmkt.jp/>

インドネシア進出準備から撤退までの要点を簡潔にまとめたサイトです。
毎月1日発行のメルマガのバックナンバーも掲載しています。
(Googleトップランキング)

インドネシア最新情報ブログ

<https://per-inc.com/blog/>

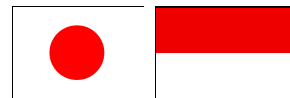
あらゆる分野での情報を毎日、どんなメディアよりも早く紹介しています。

インドネシア進出サポートウェブセミナー

<https://www.youtube.com/channel/UCXghuRz7zRX5jLOXu75rQjQ>

公式サイトに掲載されたセミナースライドサンプルの中から、ダウンロード件数の多いもの順に音声解説付きのスライドをアップロードしています。
インドネシア週刊ニュースダイジェストも毎週月曜日に発信しています。

**愛する二つの祖国である、日本とインドネシアの発展のため、
全てのコンテンツは無料で公開されています**



**ご清聴ありがとうございました
ここからは質疑応答です**